

割出された躰の根本線である。

6、先生と子供とが、いい関係(お友達のような感情であり乍ら敬愛されているならば)を保っているならば時に叱ることがあっても悪影響はない。

7、衛生的な良習慣や、日常的な生活上の良習慣は、進んで出来るよう、先生も協力してしつける。

大体以上のことが、結論として言い得るのである。次に最近の幼児の様子、或一日の日記のページをめくってみよう。

十二月二十二日(水曜日)

今日は私が遊戯室で他の組々の指導をすることになっていたので自分の組が見られなかった。そこで私はこんな事を考えていた。遊びをいい加減で片付けてO先生にお願いしよう。

ところがお部屋に入ってみると、積木でトナカイをつくりその上に一人の子供が乗っている。向うの方ではI君達がくじ引きのようなものを作って楽しみに遊んでいる最中。これを片附させるのは可

愛そうだと思つたが私がここに居てやる訳には行かない。

そこで子供達に尋ねてみた。「先生はこれから他の組さんとクリスマスのお遊びをしよう行かなければならないんだけどあなた方をどうしましょう。お片附して

O先生に遊んで戴きましようか?」すると子供達「チエツ! 先生今面白いことやのに、僕等で遊んどくわ」驚いたが重ねて尋ねた。「先生は居ないのよ、大丈夫? 遊んだ後放つて置いては駄目よ、

お片附自分達で出来るの?」すると子供達、「大丈夫よ先生、きれーいに片附けとくから」と自信満々。「でももしけんかしたら先生居なかつたら困るでしょう。」大丈夫よ、僕が止めて上げるから。」とI君自分の腕をさすって見せる。

本当かしら、心配だなーと思つたが呼びに来られたので、O先生にとに角残る子供をお願して遊戯室に行った。時々思ひ出してはとんで行って見たい気持ちになり乍ら、先ず責任丈果してお部屋に戻つたのが約束の時間を大分過ぎていた。

さぞ待つていただろうと思われる子供の姿は見えず、まあお部屋はきれいに片附けられている。玩具の一つ一つも丁寧に元の場所に整頓されている。そして床はちり一つなく帚で掃かれ、椅子もきれいに並べてある。

そして子供達はO先生のお部屋で静かにお話を聞いていた。その時の嬉しかったこと、何に感謝していいか分らないが本当に心から有難いことだと思つた。

(後から聞けば、お片附は子供達で出来たのだ、と言うこともその嬉しさを増した) (神戸市立権幼稚園)

私の組の研究

秋田 好枝

「保育者は、自己修養を一日もゆるがせ

にしてはならない。これは私の常にモットーとしていた点でありますが、日々の忙しさにとすると、怠り勝になる恐れがあります。自分が毎日致しております保育について、これでいいのだろうか、こんな方法で等と、大変疑問をもち、自信が失いかける事もあります。こんな時には、昼間の疲れも忘れて、夜遅くまで書物を読み耽るのでございます。たまたま自分の考えと共通な論説を読む場合には安心感に浸り、此の上もなく喜んでみたり、又はその反対に大いに反省悔悟する場合もあります。保育という仕事位難かしいものはないと思います。無反省で過せば何でもありませんが一生懸命になればなる程疑問や、悩みが次から次へと泉の様に湧き出て来ます。此の疑問、この悩みを解決する為には、不断の研究と懈まない努力を、傾注して、今日よりは明日へと、少しでも向上して、「愉快な保育が出来た」と、よい意味の満足感を得るようにありたいと念願しています。

幼児の指導の一つにしても、幼児の心理発達段階の研究をしなければ、よい保育は

出来ないのではないだろうか。又幼児達の家庭環境、地域社会、生育等の状態を充て理解した上に、幼稚園の保育が、打立ててゆかれなければ、真の保育は出来ないのではないだろうか。保育室の状態をどの様にするか。一つの物の配置にも、一つの額絵にも、教師の心のこもった楽しい雰囲気を作る様に努力しなければならないと思います。

それでは、保育室に於いて、子供達と生活しながら、どの様な研究をしようか、よいか、保育内容はもとより、その根本の原理を把握、発表のための研究でなく、日々のその場その場の子供の姿を観察して、理論と実際とがマッチした研究をして行かなければならないのではないかと思えます。

- 幼児の個性
- 幼児の社会性
- 幼児の行動
- 幼児の健康
- 幼児の自主性
- 幼児の表現活動

○ 保育カリキュラム

以上、私自身の研究テーマとして、日々一人一人の子供達にどの様な状態があらわれるか、十分に観察して記録し、一日の保育の反省をいたしておるのであります。

私がかねがね、私の組の幼児達の遊びについて、どの様なグループ遊びをしているか継続的に記録してみたいと思っておりますが、仲々その機会も得られずどんなにかして組全体の遊びの傾向、どんな遊びを喜んでしているか、どの位の人数のグループか、個性、行動、社会性、経験、健康という面から、園の生活に馴れ切った二期に遊びに没頭している時を見計らって、遊びの種類と幼児数を記録してみました。

(次表参照)

紙面の都合で記録の一部の種類と人数のみ書きましたが、大体大きいグループで七人位が最高であるという事と一人遊びの幼児も知る事が出来、又遊びの種類と好んで遊ぶものも理解する事が出来ました。毎日の様に同じ遊びをしている幼児、この幼児

種 類	二月一日					
	九日	二日	三日	五日	六日	
積木遊び	7	5	7			
ままごと	3	1	5			
黒板で絵をかき	4					
積木を眺めている	3	1	3			
ままごとを眺めている	3					
自由画をかき	4		6			
ブランコ	2			2	3	
砂場遊び	2					
鉄 棒	3			4		
先生につきまとう	3				2	
絵本の観察		1	2			
ぬりえをする (自分で持参)	5		2		6	
ぬりえをみている	3					
迂り台でおいごっこ	5					
三輪車			3			
スケート			2			
ブラブラする		1	2	3		
おいごっこ			4	4		
製作		1	5			
廻旋ブランコ				2		
縄とび	3	4	2			

にはもつともつと社会性を、この幼児は部屋のみ遊びが多い、静かな面のみで活動的に、一人遊びで友達を、色々な遊具が使

われない等を知る事が出来ました。或る日全幼児を低鉄棒に連れ出し、好きな遊びを試みました。いつも鉄棒で遊んで

いる幼児は、自由に身体が動き、見ていてもとても楽しそうでした。平素関心を持っていない幼児には何一つ遊ぶ事が出来ませんでした。

私は幼児の遊びが或る物だけに偏している事を、この記録でつかむ事が出来たと思いました。経験という面からも、健康という面からも、色々な遊びや運動もさせる事が、私の指導の如何によるのではないでしょう。

尤も私の園には、遊具がはんとう棒付迂り台一基、廻旋ブランコ一基、低鉄棒五間スケート一基、シーソー(舟型)二個、ブランコ四間、ジャングルジム一基、太鼓梯子一個、小型迂り台三個、等ございますが、三〇〇名の大人数で仲々遊びたくても遊べない面があります。おのずから、これらの指導について考える時、保育の一日のプログラムについての研究もしてゆかねばならぬ必然性を感じます。他の組の遊んでいる時をワークの時として朝の登園と共にワークに、他の組の部屋に入っている時或いは、園外保育の時等を充分に園庭で、色々な遊

具に依る遊びをさせるとか、園庭一杯かけめぐる遊びをする等健康面を考慮して、毎日の保育にとり組んでおるのでございませす。

幼稚園の自由遊びが、幼児の自発活動に重きをおく事の大切な事は、今更私が述べるまでもありませんが、あらゆる経験とい

組保育 解体グループ 保育	長所		短所	
	教師が個性をよく知る事が出来る。 幼児に安定感がある 経験が偏しない。 自分の採んだ遊びが出来る。	自分の採んだ遊びが出来る。	教師が個性を把握出来る。 経験が偏しやすすい。 記録が困難である。 安定感がない。	自分の採んだ遊びが出来ない。

う面健康という面からも、偏よらない様に子供達の姿を眺め乍ら、適切な指導がなされなければならぬのではないでしよるか。

次に保育の形態について少し述べてみましょう。組保育がよいか、解体したグループ

プ保育がよいか、

この様な面から、長年苦しんだものです。私は私なりに結論を出し現在は多数の幼児を収容しております関係上組保育の型を採っております。或る時は組内での自由保育、或る時は一斉にと織りませて致しております。自由遊びの中で自由に選んだ製作をさせたり、又子供達に自由をもたせた一斉保育を致しております。

今一つ表現活動中の絵画について、考えて見たいと思ひます。最近非常に幼児画の研究が盛になりましたことは、我々実務者にとつて此の上もない喜ばしいことだと思ひますが、その反面盛になればなる程、多くの

迷いが生じて信念を損うことがあります。毎日同じ絵のみ描くもの、自分の思っている事の表現が出来ないもの等々種々様々な幼児に直面する時、どんなにかして少しでも描く様にと手をかえ品をかえ導き度いと思ひます。

迷いが生じて信念を損うことがあります。毎日同じ絵のみ描くもの、自分の思っている事の表現が出来ないもの等々種々様々な幼児に直面する時、どんなにかして少しでも描く様にと手をかえ品をかえ導き度いと思ひます。

幼児画は思想画である以上、お話を聞く、幻灯をみる、音楽をきく、美しい物を観る等々、色々の直接経験を豊かにしなければならぬと思ひます。然しクレヨン、パステル、絵具、墨等の使用やフィンガーペイントの採択或いは画洋紙の質の問題、大きな問題等は私には残された大きな課題であります。研究を進めつつある点であります。

以上纏らないながら、おこがましくも、私が日々歩んでいる様子の一端を申述べましたが、要は一人一人の幼児を心からみつめて、少しでもよりよく、偏らない円満な人格形成に奉仕しなければならぬと思ひますと共に、毎日に反省を加え、地についた研究を重ねて、確固不動の信念のもとに愉快、気持のよい保育が出来ますことを念じているわけです。

(岡山市立三勲幼稚園)